

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 大家と直談判（じかだんぱん）する。
② 孫の顔を見て相好（しょうごう）を崩す。
③ 不治（ふち）の病にかかる。
④ 地方を遊説（ゆうぜつ）して歩く。
⑤ 駅が帰省（きしょう）の人でごった返している。
- (2) ① 柔道部は猛者（もうじゃ）ぞろいだ。
② 今日は小春日和（ひわ）だ。
③ 久しぶりに母屋（ぼおく）を訪ねる。
④ 雪崩（ふぶき）の被害にあう。
⑤ 川面に向かって投網（とあみ）を打つ。
- (3) ① 苦戦を強（く）いられる。
② 仰（おお）せの通りに従います。
③ 会社を興（こう）す。
④ 人前で辱（いじ）めを受ける。
⑤ 反旗を翻（くつがえ）す。

問題2 次の下線部を漢字に直したもの（送り仮名を含む）が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 彼の発言が物議をカモシテ（酔して）いる。
② 今日は寒さがヤワラゲ（柔らぐ）。
③ 鳥の足に釣り糸がカランデ（絡んで）いる。
④ 彼はとてもホガラカ（笑らか）な性格だ。
⑤ 暴利をムサボル（貧る）企業。
- (2) ① 富士山のハツカンセツ（初完雪）が見られた。
② シロショウゾク（白装束）に身を包む。
③ ナマハンカ（生半加）な気持ちでは行うことができない任務。
④ 彼の家はオオジョタイ（大所隊）だ。
⑤ ヤクビョウガミ（役病神）と言われたくない。
- (3) ① 妹のユイノウ（由納）に同席する。
② 開店セールでソシナ（素品）を配る。
③ まるで悪のゴンゲ（権気）のような人だ。
④ キャタツ（脚建）を使って雨どいの掃除をする。
⑤ 父は笑いジョウゴ（上戸）の人だった。

問題3 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

- (1) 新進キエイの新人が現れる。
- ① このエイゾウは京都で撮られたものだ。
 - ② 長期間ハンエイした文明。
 - ③ 人工エイセイから送られた写真。
 - ④ エイリな刃物を用いる。
 - ⑤ 町工場をケイエイする。
- (2) 心臓をテキシュツする。
- ① 誤りをシテキする。
 - ② スイテキがぼたぼた落ちる。
 - ③ テキトウに返事をする。
 - ④ 部下にテキカクな指示を出す。
 - ⑤ ムテキの八連勝を達成する。

問題4 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選べ。

- (1) 金科玉条
- ① 自分一人だけが偉いとうぬぼれること。
 - ② 口先で人をだますことのととえ。
 - ③ 物事の最後の仕上げとして、もっとも大事なところに手を加えること。
 - ④ この世に存在する形あるものは、すべて壊れる運命にあるということ。
 - ⑤ ぜひとも守らなければならないきまり、ルール。
- (2) 隔靴搔痒そつよう
- ① 動作が非常に素早いたとえ。
 - ② 思うようにならず、はがゆくて腹が立つさま。
 - ③ 言語では断じきれない、表現のしようがないこと。
 - ④ 腹をかかえて、ひっくり返るほど笑い転げるさま。
 - ⑤ 目的や仕事をこなすため、あちらこちらへ忙しく駆け回ること。
- (3) 臥薪嘗胆がしんしょうたん
- ① 人の世の栄華ははかなくむなしいことのととえ。
 - ② 苦勞して学問にはげむこと。
 - ③ なんの痛みも感じない、なんともないということのととえ。
 - ④ 長い間、困難にたえて苦勞・苦心することのととえ。
 - ⑤ 実力が同じくらいで、優劣がつけにくいこと。
- (4) 暖簾のれんに腕押し
- ① なにかに使おうとしても、中途半端で、役に立たないことのととえ。
 - ② 相手にさからわないで、上手に受け流すこと。
 - ③ 相手がなんの反応も示さず、手ごたえがないことのととえ。
 - ④ 余計なことをして、かえって災難をまねくことのととえ。
 - ⑤ いったんはじめた以上、途中でやめるわけにはいかないことのととえ。

(5) 提灯ちようちんに釣り鐘

- ① あまりにもだしぬけのできごとに、非常に驚くことのたとえ。
- ② 目上の人、特に地位の高い人を激しく怒らせるたとえ。
- ③ 大きな差のあるもの、つり合わないもののたとえ。
- ④ 力のない者が実力者の威勢を借りていばることのたとえ。
- ⑤ あっても役に立たないもの。また、余計なものをつけ足すこと。

問題5 次のうち「状況がまったく分からないため、物事の手がかりがつかめず、なすすべがない状態」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 五里霧中
- ② 温故知新
- ③ 不ふ俱ぐ戴天
- ④ 焚書坑儒ふんしよ
- ⑤ 四面楚歌そか

問題6 次のうち「応用や融通がきかないことのたとえ」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 団栗どんぐりの背くらべせい
- ② 杓子しやくし定規
- ③ 焼け石に水
- ④ 渡りに船
- ⑤ 身から出た錆さび

問題7 次のうち「道徳・倫理」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① モラル
- ② セオリー
- ③ マージン
- ④ アセスメント
- ⑤ メソッド

問題8 次のうち「高尚」と同じ意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 傲慢 ② 謙虚 ③ 重要 ④ 上品 ⑤ 神聖

問題9 次のうち「寛大」と反対の意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 縮小 ② 愚劣 ③ 粗雑 ④ 低俗 ⑤ 厳格

問題 10 次のうち下線部が慣用表現として正しいものを一つ選べ。

- ① そんなこと頼まれても、私の手が負えない。
- ② 金を返してないのにまた借りに来るとは、顔の皮が厚い奴だ。
- ③ 一人だけ成功したので彼女は悦に入っている。
- ④ 襟を直して恩師の話聞く。
- ⑤ あまりの悲しみに彼は人目をはばまず大声で泣いた。

問題 11 次のうち敬語表現として正しいものを一つ選べ。

- ① 中村先生も昼食をいただくとのこと。
- ② 私から一言お礼を申し上げます。
- ③ 三上様は何時に私の家にかがいますか。
- ④ この商品は宅配便で送らせていただきます。
- ⑤ 教授がこのようにおっしゃられていました。

問題 12 次の記述に当てはまる人物として正しいものを一つ選べ。

この人物は、明治5年生まれ。詩集「若菜集」などによって詩人として名声を得たが、のちに小説家に転じ、長編小説「破戒」を発表。自然主義文学の創始者といわれる。代表作には「破戒」のほかに、幕末維新期の動乱を描いた歴史小説「夜明け前」がある。

- ① 菊池寛
- ② 島崎藤村
- ③ 斎藤茂吉
- ④ 正岡子規
- ⑤ 志賀直哉

問題 13 次の文章を著した人物として正しいものを一つ選べ。

妻智恵子^{ちえこ}が南品川ゼームス坂病院の十五号室で精神分裂症患者として粟粒性肺結核^{ぞくりゅう}で死んでから旬日で満二年になる。私はこの世で智恵子にめぐりあったため、彼女の純愛によって清浄にされ、以前の廢顔^{はいたい}生活から救い出される事が出来た経歴を持って居り、私の精神は一にかかって彼女の存在そのものの上にあつたので、智恵子の死による精神的打撃は実に烈^{はげ}しく、一時は自己の芸術的製作^そさえ其の目標を失ったような空虚感にとりつかれた幾箇月かを過した。

- ① 高村光太郎
- ② 夏目漱石
- ③ 太宰治
- ④ 宮沢賢治
- ⑤ 堀辰雄

第2問 次の文章を読んで、後の各問いに答えよ。

(健と由三は、北海道のS村に住む貧しい農家の兄弟である。ある日、S村付近で陸軍の演習が行われた。)

「ええ馬だな。——俺^{おら}アの馬ど比らべてみれでア！」

由三は馬の側を離れないで、前へ廻^{まわ}ったり、後へ廻^{まわ}ったり、^{注1}蹲^{つな}んで覗^{のぞ}き込んだ。

「兄^{らいしん}ちゃ、来^{らいしん}年^(ルビは原文ママ)兵隊さ行けば、馬さ乗るんだべか。ええなア！」

街にはどの家にも^{注2}宿割の紙が貼らさっていた。——市街地を出ると、銃を肩にかけ、胸のボタンを二つほど外して、帽子の下にハンカチをかぶった兵隊が三人、靴底の金具をヂャリヂャリさせて、ゆるい歩調でやってきた。

「S村って、これですか。」——市街地を指さした。片手に地図を持っていた。

由三が健より先きに周章^{あわ}てて答をひったくった。

「んですよ。」と云^いった。

それだけで、それが由三には大した(ア)なことに思われた。①

銃声は東の方から起っていた。それで基線道路から殖民区域七号線へ道を折れて入った。少し行くと、^{ところどころ}処々道に見慣れなく新らしい馬糞^{ばふん}が落ちていた。

「あらッ！ あらッ！ あら、なア！」

由三が頓狂に叫んだ。田圃^{たんぼ}を越して、遠く、騎兵の一隊が七、八騎時々見え、かくれ、行くのが見えた。——もう、由三は夢中だった。河堤に出ると、村の人達が二、三十人かたまって、見物していた。由三は健の手を離れて、先きに走り出してしまった。②

百人近くの兵隊が銃を組んで休んでいた。ムレた革と汗の匂いが、皆の立っている処までしていた。——日蔭^{ひかげ}になっているところには、上半身を裸にして、仰向けに寝ているものが二、三人いる。どの兵士も胸の中ががっくり頭を落したり、横になったり——皆ぐったりしていた。(ウ)然^{しか}し顔だけは逆^の上^ぼせたように、妙に赤かった。それが気になった。汗が上衣まで通って、背の出張ったところ通りの形にグッシヨリ濡^ぬれていた。

「どうしたんだべな。」

「追^お(ルビは原文ママ) われて来^おたんだべよ。——見れ、弱^おってる！」

不意に、あまり遠くない処で銃声がした。雑木林から吹き上げられたように、鳥の群が飛び立った。続いて銃声がした。——と、上官らしいのが列外へ出て、何か号令をかけた。ガチャガチャと金具の音が起った。が、皆はどうにもならないほど、疲れ切っていた。③

「グズグズしちアいかん！ グズグズしちアいかん！」

上官がカスれた声で怒鳴った。

「やっぱり兵隊って、ええものだね。——ラッパの音でもきいたら、背中がゾクゾクしてくるからな。」

健の隣りで話している。——「青島」で右手がきかなくなってから、働くことも出来ず、半分^{こじき}乞食のような暮しをしている「在郷軍人」だった。

「戦争だって、考えたり、見たりするほどおツかねえもんでねえんだ。ワアッて行けば、何んしる……」

(ウ)皆に聞えるように、わざとに声を高めた。

兵隊は歩きづらい砂地を、泥人形のような無^ぶ恰^{かっこう}好^{こう}さで、ザクザク歩き出した。だまりこくって、

(工) 眼を前方の一定のところへすえたとき、自分のではない、何か他のものの力で歩かせられているように、歩いていた。病人を無理に立たせて、両方から肩を組み、中央まんなかにして歩かせた。が、他愛なく身体がブラ下ってしまった。頭に力がなく、歩く度にグラグラッと揺れた。㊦

皆はゾロゾロ堤を引き上げた。雑木林の中から、その時だった、突如カン声が上がった。帽子の色がちがった別な一隊が、つけけん附剣をして「ワアッ、ワアッ！」と叫びながら、さっきの兵隊の後横へ肉迫していた。——不意を喰くってしまった。立ち直る暇もなく、そのままたいご隊伍を潰して、横へそれると、実りかけている田の中へ、ドタドタと入り込んでしまった。見ている間に、靴の下に稲が踏みにじられてしまった。

「あ、あッ、あ——あッ、あッ！」

田の向うに一かたまりにかたまって見ていた小作人が、手を振りながら夢中かに駈けて来るのが見えた。健達も思わず走った。——百姓達には、それは自分の子供の手足を眼の前で、ねじり取られるそのままの酷むごたらしさだった。

「何するだ！」

「何するだ！ 稲!! 稲!!」

然し兵隊のワアッ、ワアッという声に、それはモミ潰されてしまった。士官は分っていて、号令をやめなかった。——もう百姓は棒杖ぼうじょうのように、ツツ立ってしまうよりない!

ようやく「しゅうせん休戦ラッパ」が鳴った。

兵卒達はそれでも稲を踏まないように、跳ね跳ね田から出てきた。㊧

士官は汗をふきながら、プリプリして、

「後でしゅけい主計が廻ってくるんだから、その時申告すれアいいんだ。」

(オ)それは分わっている! 然し損害を受けただけを申告すれば、その度に「これを種もにして儲けやがるんだろ。」「日本国民として、この位の損害をワザワザ申告するなんてあるか。」と云われる。「帝国軍人のためだと云って、申告しない百姓さえあるんだぞ。」そんな事も云う。——貧乏な、人の好よい小作人はどうすればいいか? ——小作料を納める時になれば、地主はそんなことを考くわ慮りさえもしてくれない。

兵士達はそれ等らの話はなしを気の毒あはれそうに、離れてきいていた。——矢張り小作人の倅せがれ達たちがいるんだろ、健はそのことを考えていた。

田を踏みにじられた隣の農場の小作が、(力)、田の中に入って行って、倒れた稲を起しにかかった。——健にはそれは見ていられなかった。

(出典：小林多喜二「不在地主」岩波文庫)

(注) 1 躡しんで：しゃがんで。 2 宿割しゆくわり：宿泊する人を何軒かに割りふること。

3 附剣つけけん：銃の先に銃剣をつけること。着剣。 4 隊伍たいご：兵隊がきちんと並んだ列。

5 休戦ラッパしゅうせんらっぱ：ここでは演習終了の合図。 6 主計しゅけい：旧陸海軍で、会計をつかさどった武官。

問題 14 次の文は本文の一部である。挿入場所として最も適当な場所を一つ選べ。

見ていると、人の腋わきの下を潜り、グングン押しわけて一番前へ出てしまった。

① ㊦ ② ㊧ ③ ㊨ ④ ㊩ ⑤ ㊪

問題 15 (ア) に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 新鮮 ② 優雅 ③ 困難 ④ 名誉 ⑤ 屈辱

問題 16 下線部(イ)「然し顔だけは逆上せたように、妙に赤かった」とはどういう様子を表しているか。最も適当なものを一つ選べ。

- ① 演習中に日蔭で一息つけてはいるものの、いつ再開されるか分からないため緊張が抜け切れていない様子。
② 負傷者も出る過酷な演習の不条理さにあきれつつも、上官の指示に従うしかなくあきらめきっている様子。
③ 厳しい演習に我慢が限界に達しており、どうしたら軍隊から逃げ出せるのかを考えて頭が一杯になっている様子。
④ 疲れ切っているため日蔭に隠れるように体を休めていたが、見物人がいたのを知って急に恥ずかしくなった様子。
⑤ 厳しい演習で言うことを聞かないほど疲れ切っている身体と裏腹に、頭では何とか立ち上がろうと考えている様子。

問題 17 下線部(ウ)「皆に聞えるように、わざとに声を高めた」とあるが、このときの「在郷軍人」の心情の説明として最も適当なものを一つ選べ。

- ① あのように立派に見える軍人たちも、実際の戦場では大したこともできないのだと皆に吹聴したいと思っている。
② 自分も以前は活躍した軍人であるから、もっと大切に扱ってくれてもいいのではないかと皆に訴えたいと思っている。
③ 現在は働くことも出来ずどうしようもないが、かつては自分も果敢に敵軍へ攻め入る軍人であったことを皆に誇示したいと思っている。
④ 自分がかつて所属していた軍隊はあの疲れ切った兵隊以上に立派なものであったと、皆に自慢したいと思っている。
⑤ やはり自分の居場所は軍隊しかないということを痛切に感じ、もう一度兵隊として国のために尽くしたいと思っている。

問題 18 (エ) に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 悠長に ② 冷酷に ③ 自墮落に ④ 卑屈に ⑤ 空虚に

問題 19 下線部(オ)「それは分っている！」とあるが、この説明として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 軍人のため、国のためといって百姓を冷遇する世間一般や地主に対する健の嘆き。
② 申告しても無駄だと分っているのに申告しろとずうずうしく言う士官に対する健の怒り。
③ 人が好いため軍人や地主に抵抗することもできない自分たち農民に対する健の^{あき}呆れ。
④ 被害を申告して儲ける人と損をする人との間に溝ができることに対する健の不安。
⑤ 食糧としての米の尊さすら忘れてしまった軍人たちの高慢さに対する健の戸惑い。

問題 20 (カ) に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 地べたに這^はいつくばるように
- ② 子の墓前に手を合わせるように
- ③ 壊れた瀬戸物でもつなぎ合わせるように
- ④ 頭に拳銃を突きつけられるように
- ⑤ 激しい川の流りに逆らうように

問題 21 次のうち本文の内容に合致する記述として正しいものを一つ選べ。

- ① 初めは軍隊に対して憧れを抱いていた健の気持ちも最後には失望に変わった。
- ② 日蔭で休憩する疲れ切った兵隊の姿を見た村人たちの中に失望感が募っていった。
- ③ 兵士たちは追っ手に奇襲された途端病人を放り出して一目散に逃げ出した。
- ④ 田の中へ入り込み稲を踏みつけた兵士たちの心の中にもやるせない思いはあった。
- ⑤ 兵士たちの心にある望郷の念を感じた健は、理不尽な兵士という職に同情を感じた。